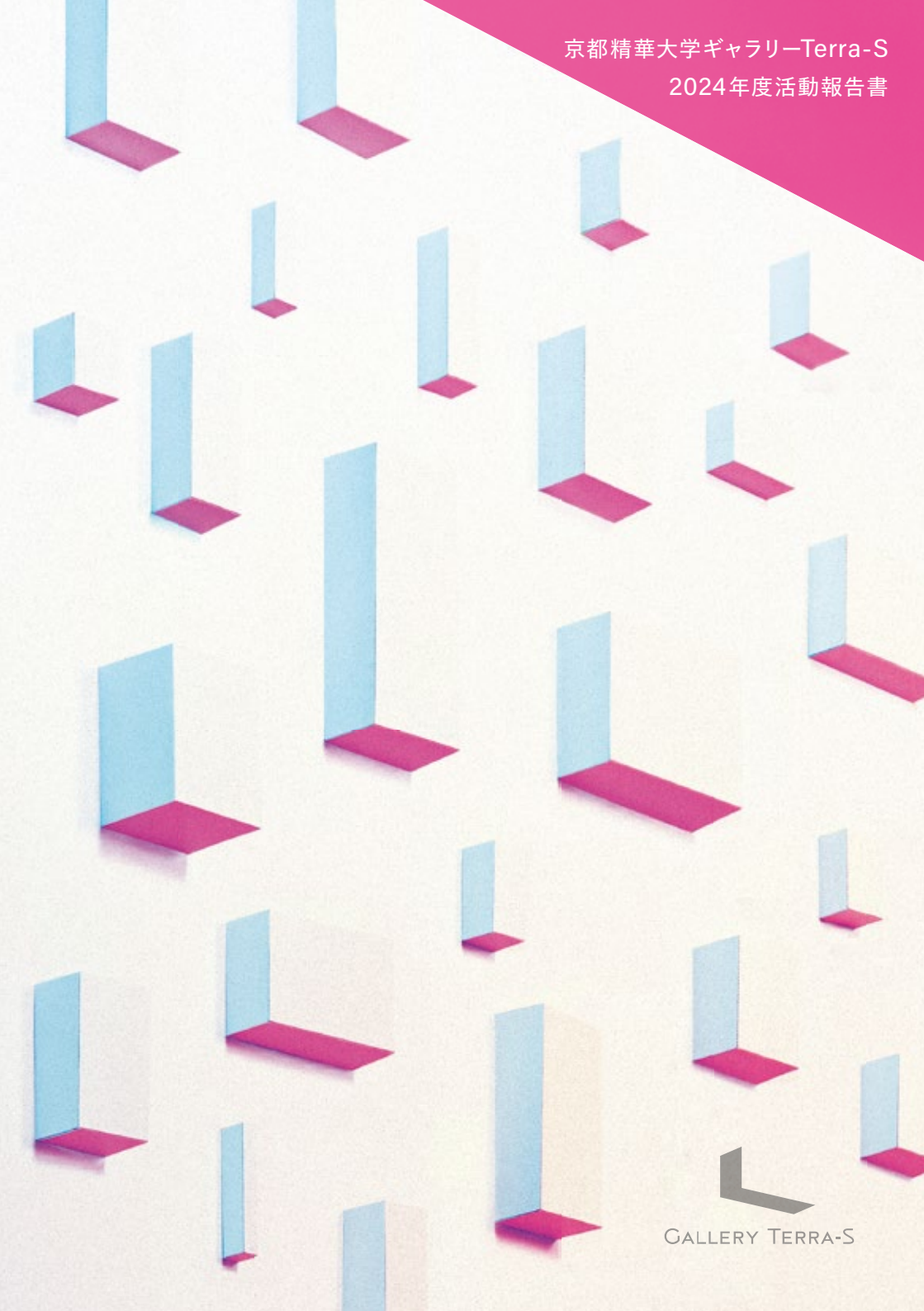
京都精華大学ギャラリーTerra-S
2024年度活動報告書



GALLERY TERRA-S

京都精華大学ギャラリーTerra-S
2024年度活動報告書

2024年度ギャラリーTerra-S運営委員会

鳥羽美花｜ギャラリーTerra-S館長／芸術学部教員
宮永亮｜芸術学部教員
山口義順｜デザイン学部教員
横山みわ｜メディア表現学部教員
伊藤まゆみ｜ギャラリーTerra-S学芸員／学長室グループ員
松井雅｜学長室グループ員 ※陪席
池田和正｜学長室グループ員 ※陪席

目次｜CONTENTS

05　ご挨拶

企画展＆その他

08　京都精華大学×ソウル市立大学校交流展「828.45K―Come & Go」
14　Seika Artist File #2「Imagined Sceneries―7つの心象風景をめぐる」
20　京都の大学ミュージアム特集4「ヒトの交流／モノの交流」

申請展＆その他

24　生駒泰充展 — The Never Ending Story —
26　あめつちのおもい
28　VISUAL PRODUCT 2023「6/5」
30　小田隆展「Oil Painting」｜小田研究室大学院生合同展「優美な屍骸」
32　〇
34　合同陶芸展 2024
36　OPEN THE [KAN]
38　てのひらのフォーム
40　京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第27回華展「轍」
42　木野祭2024作品展示会「閃光突破」
44　etc…
46　かくれんぼの森 三木梨々花×Liisa
48　光の届く
50　ポール・コックス ポスター展
52　京都精華大学展2025 — 卒業・修了発表展 —
54　管派／穴派
56　高校生のための第6回創作作品コンペティション「SEIKA AWARD 2025」入選作品展
58　香老舗 松栄堂 薫習館 展示壁利用 2024年度

60　2024年度ギャラリー来場者数
61　施設案内・ギャラリー図面

ご挨拶

2024年4月より、ギャラリーTerra-Sは博物館指定施設として再整備するため動き出した。

ギャラリーTerra-Sは、「作品の生まれる場所」である本学キャンパスの一角にある。目の前に広がる風景は、遠くの山から入道雲が湧き上がるかと思えば、雨上がりの日差しが降り注ぎ、遮るものがない空が広がっている。

図らずも館長に就任してから、ここは特別な場所かもしれないと思い始めている。変化を伴う外の世界と展示空間、そして余白が作品とともに別の世界を形作っている。

この一年、ギャラリーTerra-Sではさまざまな展覧会が開催された。どの展覧会も国際的な視野に立ちつつ、日本に繋がっているように感じている。これは、世界の変化と共に、芸術のボーダーもなくなり、より活発な動きが展開されてきているからであろうか。

ギャラリーTerra-Sには制作されてきた時間や熱量が溢れ、作品の精神性が享受できる。写真もメモも許されていて、鑑賞者と制作者の距離が近く、来場者は思い思いの世界に浸っている。

学芸員と展示コーディネーターの二人で運営するこのギャラリーは、世間の物差しや毀誉褒貶と無縁な世界であり、純粋に展示作品を楽しめる場所である。

京都精華大学ギャラリーTerra-S館長／芸術学部教員
鳥羽美花

企画展&その他

SPECIAL EXHIBITION &
OTHER EXHIBITION

企画展は、①本学の収蔵作品を調査研究し、紹介する収蔵品展、②活躍する卒業生及び教員を調査し、学芸員がテーマにもとづいて紹介する展覧会、③教員の研究テーマにもとづいた研究成果発表の場としての展覧会、という３つの方向性に基づいて、前期（4－9月）と後期（10－3月）の年2回、約4～5週間の会期で例年開催している。ギャラリーの学芸スタッフ及び教員が日頃の調査研究のもと企画・実施し、その成果を展覧会という場をとおして広く社会へと発信している。

今年は前期に本学とソウル市立大学校との交流展「828.45K―Come & Go」と後期に本学卒業生及び教員のアーティストを紹介するグループ展「Seika Artist File #2『Imagined Sceneries―7つの心象風景をめぐる』」を開催した。

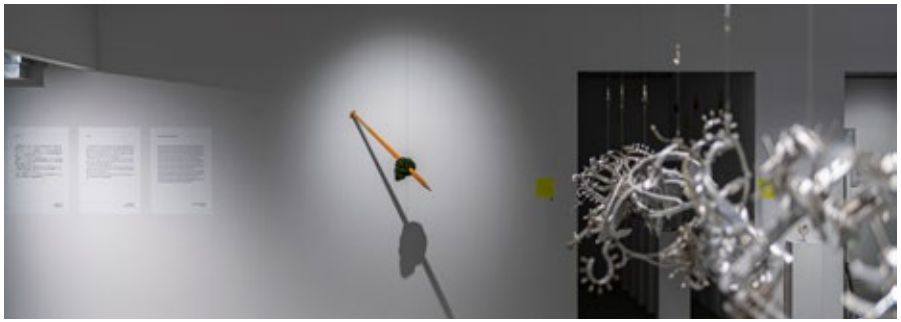
そのほかギャラリーが主催する展示として、ギャラリーが加盟する京都・大学ミュージアム連携と京都伝統産業ミュージアムとの共催・企画による合同展「京都の大学ミュージアム特集4『ヒトの交流／モノの交流』」に参加し、学外で本学の収蔵品を紹介する好機となった。

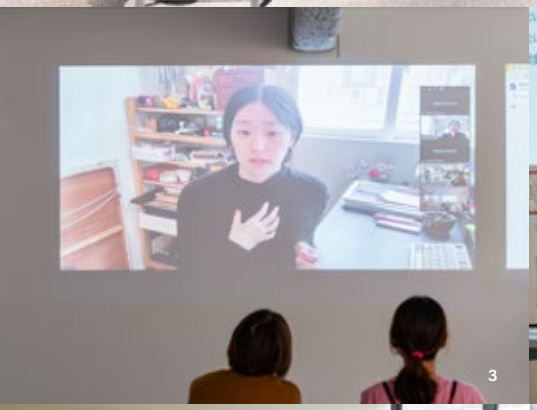
京都精華大学×ソウル市立大学校交流展「828.45K — Come & Go」

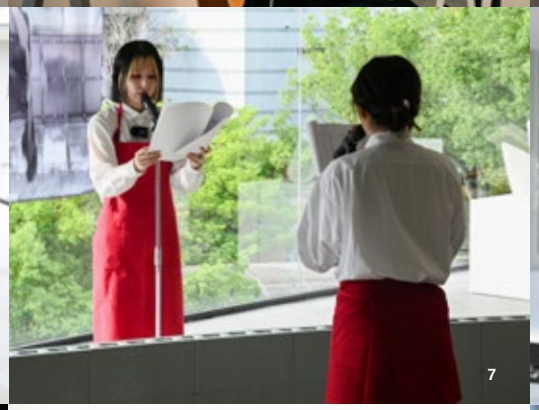
デザイン | 花戸麻衣

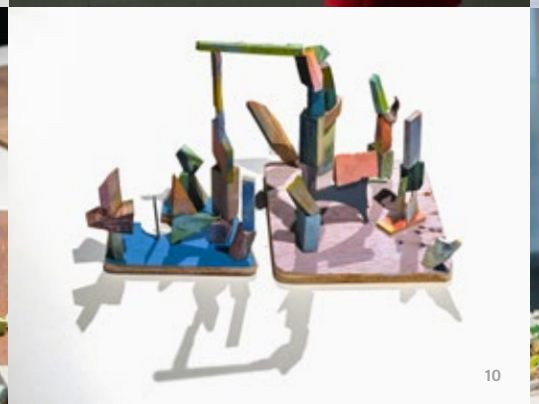
会　　期　2024年7月5日(金)–8月4日(日)
時　　間　11:00–18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　京都精華大学
助　　成　韓国国際交流財団、
京都精華大学学長指定課題研究費
出展作家　【ソウル市立大学校】千原加琳、ホ・シハ、ジャン・ジュンホ、カン・ドッポン、カン・ジホ、キム・ナムヒョン、キム・ソク、イ・ジェヒョン、イ・ジョンス、イ・ユンソク、イム・ジュンホ、ミン・ジョンス、パク・スジン、ソン・ジョンジュン、ソン・サンウォン
【京都精華大学】ト・シャノン・カヤ、肥後亮祐、平岡真生、ホン・ウォンヒョン、井川彩子、今村源、森太三、西山美なコ、パク・ジウ、鐵羅佑、シュー・ヤティン、吉野央子、吉岡幸真希
【ゲストアーティスト】イ・ラン、浜辺ふう
企　　画　吉野央子(京都精華大学芸術学部教授)、ソン・ジョンジュン(ソウル市立大学校彫刻学科教授)、齋藤雅宏(京都精華大学ギャラリーTerra-S展示コーディネーター)
開場日数　27日
入場者数　1,079人

本展はソウル市立大学校と本学の教員、在学生、卒業生による交流展で、2024年3月にソウル市立大学校の赤レンガギャラリーにてソウル展を開催し、京都展をギャラリーTerra-Sにて開催した。展覧会タイトルの「828.45K」は両校間の距離を表している。ゲストアーティストを含めた総勢30名のアーティストが社会と環境の急激な変化を両国からみつめ、独自の問題意識や世界観を作品で表現し、展覧会をとおして言語の壁を越えた文化的対話の場となることを目指した。会期中にはパフォーマンスやワークショップを実施し、作家らの表現に触れ、楽しむ機会となった。









京都精華大学×ソウル市立大学校交流展「828.45K—Come & Go」

関連イベント

アーティストトーク

日時｜7月5日（金）16:30–17:30
会場｜ギャラリーTerra-S
※トーク終了後、レセプションを開催
写真｜1、2

イ・ラン×浜辺ふう パフォーマンス

日時｜7月6日（土）14:00–15:30
会場｜ギャラリーTerra-S
出演｜イ・ラン、浜辺ふう
企画協力｜Sweet Dreams Press
写真｜3、4、5

パフォーマンス「今日もいいお天気ですね」

日時｜7月20日（土）
11:00／13:00／15:00／17:00（各回約15分）
会場｜ギャラリーTerra-S
出演｜平岡真生、王雯卉（京都市立芸術大学博士課程在籍）
写真｜6、7、8

ワークショップ「2つの街」

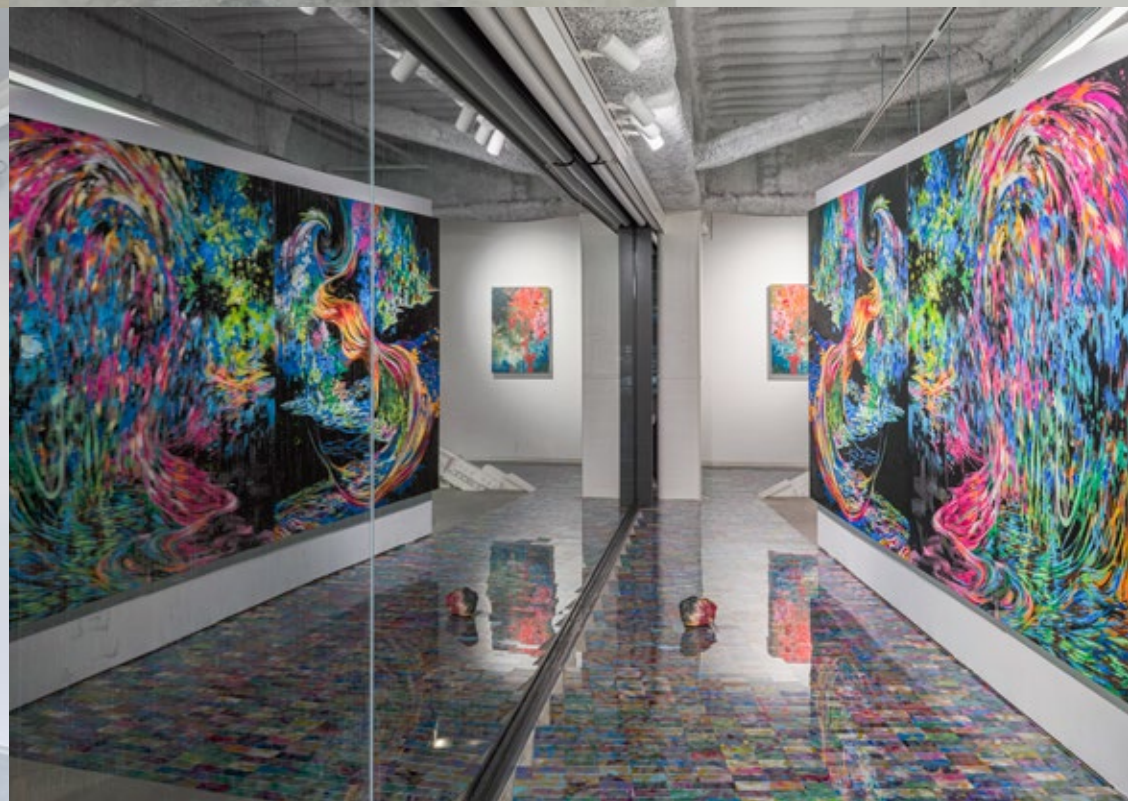
講師｜森太三
日時｜7月27日（土）13:00／14:00／15:00
会場｜明窓館3F アクティビティコモンズ
写真｜9、10、11

Seika Artist File #2
「Imagined Sceneries ― 7つの心象風景をめぐる」

デザイン | 大槻智央

会　　期	2024年11月15日(金)–12月21日(土)
時　　間	11:00–18:00
会　　場	京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催	京都精華大学
出展作家	石原葉、岸映子、佐川晃司、ジダーノワ・アリーナ、高原秀平、西村涼、山本理恵子
企　　画	伊藤まゆみ(京都精華大学ギャラリーTerra-S学芸員)
開場日数	32日
入場者数	1,302人

ギャラリーTerra-Sの特徴的な展示空間を生かし、活躍する本学卒業生及び教員のアーティストを紹介するグループ展「Seika Artist File」の第二弾として「Imagined Sceneries―7つの心象風景をめぐる」展を開催した。本展は、「Imagined Scenery(心象風景)」をキーワードに、本学ゆかりの7名の作家による、洋画、日本画、版画、映像、陶芸等、多様なメディアの作品で構成された。7つの展示室を順にめぐりながら、各作家たちが紡ぎだす「心象風景」をとおして、新たな視点／価値観と出会うきっかけとなることを目指した。会期中は出品作家を講師に迎えたワークショップを実施し、子供から大人まで様々な世代の参加者が集い交流する機会となった。



Seika Artist File #2
「Imagined Sceneries ―7つの心象風景をめぐる」

関連イベント

出品作家によるオープニング・トーク

日時｜11月15日(金)17:00–18:00
会場｜ギャラリーTerra-S
※トーク終了後、レセプションを開催
写真｜1、2

ワークショップ「風景を彫る」

講師｜西村涼
日時｜11月16日(土)13:00–16:00
会場｜ギャラリーTerra-Sほか
写真｜3、4

ワークショップ
「絵とAIイメージの往来に起こること」

講師｜山本理恵子
日時｜11月23日(土)13:00–15:30
※ワークショップ終了後、アフタートーク
ゲスト｜倉地宏幸(大阪電気通信大学 総合情報学部
ゲーム & メディア学科 准教授)
会場｜ギャラリーTerra-Sほか
写真｜5、6、7

ワークショップ「ひろがる視(め)と身体(からだ)」

講師｜ジダーノワ・アリーナ
日時｜12月7日(土)10:00–17:00
会場｜ギャラリーTerra-Sほか
写真｜8、9

ワークショップ「演じている人を描く」

講師｜石原葉
ゲスト｜崎田ゆかり(ゲッコーパレード)
日時｜12月14日(土)13:00–15:30
会場｜ギャラリーTerra-Sほか
写真｜10、11

学芸員によるギャラリートーク

日時｜11月30日(土)14:00–14:30
会場｜ギャラリーTerra-S
写真｜12

京都の大学ミュージアム特集 4
「ヒトの交流／モノの交流」

会　　期	2024年11月8日（金）–12月22日（日）
時　　間	10:00–18:00（入館は17:30まで）
会　　場	みやこめっせ地下1階中央西側 『WEST SQUARE Window Gallery』
所 在 地	京都市中京区烏丸通二条上ル東側
観 覧 料	無料
主　　催	京都伝統産業ミュージアム（株式会社京都産業振興センター）
共催・企画	京都産業大学ギャラリー、京都市立芸術大学芸術資料館、京都精華大学ギャラリーTerra-S、 嵯峨美術大学・嵯峨美術短期大学附属博物館、同志社大学歴史資料館、 龍谷大学龍谷ミュージアム、京都・大学ミュージアム連携
来場者数	6,244人

ギャラリーTerra-Sが加盟する京都・大学ミュージアム連携と京都伝統産業ミュージアムとの共催・企画による合同展「京都の大学ミュージアム特集4『ヒトの交流／モノの交流』」に参加した。本特集展示では、加盟館が所蔵する、ヒトの交流やモノの交流にまつわる資料が展示された。本学からは田中直一コレクションと安達一貫コレクションより5点の「染の型紙」を出品。京都に限らず日本あるいは世界のさまざまな地域の「交流」を示す資料が並び、各大学の特徴ある収蔵品を紹介する貴重な機会となった。

田中直一コレクション《染の型紙》
京都精華大学ギャラリーTerra-S蔵

申請展&その他

OPEN CALL EXHIBITION &
OTHER EXHIBITION

申請展は、在学生や卒業生、教職員自身がディレクターとなって自らの学修成果・研究成果を発表する展覧会である。授業やサークル活動の成果発表展や有志によるグループ展、自らの制作活動を振り返る個展など、その内容は幅広く多彩である。展示空間はギャラリー全域を使った全区画、半分に分割したA・B区画を選ぶことができ、前期と後期の年2回募集を行い、運営委員による審査を経て選ばれた企画が約8日間にわたって展示し、年間をとおして約12〜14本の展覧会を開催している。

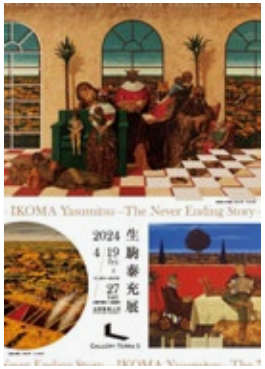
今年は、在学生の申請が6展、教員の申請(出品者は在学生を含む)が7展、卒業生の申請が1展あり、画業の振り返りや授業の成果展、他大学との交流展など様々な制作・研究成果の発表の場となった。

また、そのほか大学行事に関連する展示として、「木野祭2024作品展示」や「京都精華大学展2025」、「高校生のための創作作品コンペティション『SEIKA AWARD2024』入選作品展」の展示会場としても活用され、大学の周辺地域も含めて、学内外から多数の来場があった。

生駒泰充展
— The Never Ending Story —

会　　期　2024年4月19日(金)－4月27日(土)
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　生駒泰充
開場日数　9日
入場者数　1,012人

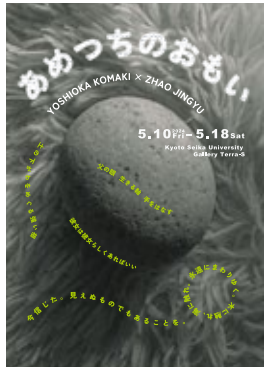
芸術学部洋画専攻で37年間教鞭をとった生駒泰充の退任を節目に、これまでの画業を振り返る個展を開催。生駒は「生命の循環」を主要なテーマに、人物や風景、動植物を寓話的に描いた絵画を制作し、45年間にわたり美術団体二紀会にて発表を続けてきた。本展では油彩や卵テンペラ、アクリル絵具で描かれた100号から200号の大作を中心に計45作品を展示。ギャラリー壁面を埋め尽くす圧巻の展示空間となった。来場者は生駒が描き続けてきた「The Never Ending Story(終わりなき物語)」に触れ、世界を巡る見えないエネルギーを想像する機会となった。



あめつちのおもい

会　　期　2024年5月10日(金)－5月18日(土)
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S A区画
主　　催　吉岡幸真希×趙婧鈺
出展作家　吉岡幸真希、趙婧鈺
開場日数　8日
入場者数　439人

芸術学部立体造形専攻4年生の吉岡幸真希と芸術研究科2年生の趙婧鈺の二人展。天地人、森羅万象を見つめるそれぞれのまなざしを作品を通じて表現した。吉岡は写真や映像、テキスト、石、身の回りのものを用いて、記憶や関係、環境など変化していく物事を作品に映し出した。趙は自身の経験から自己の内側と外側を見つめ、女性の身体をモチーフにした陶作品や、布を用いて胎内を想起させるインスタレーション作品を制作した。来場者はそれぞれの作品の世界観と、二者の作品が響き合う展示空間を楽しんだ。



VISUAL PRODUCT 2023「6 / 5」

会　　期	2024年5月10日(金)－5月18日(土)
時　　間	11:00－18:00
会　　場	京都精華大学ギャラリーTerra-S B区画
主　　催	京都精華大学ビジュアルデザイン学科 ビジュアルデザイン応用実習・ ビジュアルプロダクト2023
出展作家	安座間桜、安藤愛惟、ガン・ジョンウ、コウ・シ、 ゴ・クンゲン、ショウ・ショウ、タイ・ムエイ、谷口琴音、 平野心優、ペク・スンウン、水本美唯
担当教員	増永明子、峠田充謙、王怡琴
撮影協力	四辻蓮
開場日数	8日
入場者数	439人

2023年度のプロジェクト授業「ビジュアルプロダクト」の成果発表展。本授業ではデザイン学部ビジュアルデザイン学科の学生11名が、「五感」をテーマに、紙や印刷の加工による表現を追究した作品を制作した。すべての作品は「紙」を使用。触ることで形が変化する作品や光や風などの自然から着想した作品など様々な紙の作品がギャラリー窓際の明るい空間に並んだ。来場者が作品を鑑賞して気づきを得る体験を6つめの感覚「意」として捉え、タイトルを「6/5」とした。メディアのデジタル化が進む中、学生にとってあらためて紙の魅力を見出し、可能性を探る機会となった。

小田隆展「Oil Painting」
小田研究室大学院生合同展
「優美な屍骸」

会　　期	2024年5月24日(金)－6月1日(土)
時　　間	11:00－18:00
会　　場	京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催	小田研究室
出展作家	小田隆、栗原飴、スズ、陳書佳、陳怡月、龍霊、望月アミ、相馬夕実、パク・ジウ、府高航平、三ト二三
開場日数	8日
入場者数	616人

マンガ学部教員の小田隆の個展と小田研究室の大学院生7名と卒業生3名によるグループ展をギャラリーを二分して同時開催した。個展「Oil Painting」ではヒトから『ヴェロキラプトル』『スミロドン』といった古生物まで、様々な生き物を実寸大で描いた油彩作品を展示。グループ展のタイトル「優美な屍骸」は、シュルレアリスムにおける作品の共同制作の手法で、複数の作家が互いに他の作家がどのようなものを制作しているかを知ることなしに、自分のパートだけを制作するというもの。研究室で初めて出会った学生たちが、互いの作品を初めて知る場となり、互いに影響を与えながら密度の高い展示をしたいという思いを込めた。会期中は卒業生の三ト二三と府高航平によるライブペインティングが行われ、展覧会会場を盛り上げた。

○

会　　期　2024年6月7日(金)－6月15日(土)
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　b.sky
出展作家　金ヶ江ひとみ、川上芽、川津啓介、阪倉歩、坂本萌々
開場日数　9日
入場者数　278人

芸術学部の日本画、陶芸、テキスタイル、版画専攻4年生、5名によるグループ展。出展作家らは芸術学部1年次の「体幹教育」を通じて知り合い、本展を通じて体幹教育以降の成長と変化を振り返ることを目的とし、過去作と近作を展示した。展示作品同士を対比、呼応させることで、会場全体が一つの円環＝循環の様相を呈すること目指し、本展タイトルを「○」とした。各作家が制作で用いる素材で「○」をつくり、重ね合わせてタイトルロゴを制作した。各専攻の専門性をそれぞれに発揮したみずみずしい作品は来場者を楽しませた。

合同陶芸展 2024

会　　期　2024年8月27日(火)－8月30日(金)
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　京都学生合同陶芸展実行委員会
出展大学　京都精華大学、嵯峨美術大学、
　　京都市立芸術大学、京都芸術大学、
　　京都美術工芸大学、大阪芸術大学
開場日数　4日 ※台風10号の接近に伴い、31日(土)は臨時休場
入場者数　261人

京都で陶芸を学ぶ学生の交流と発表の機会として2010年より毎年開催され、今年で14回目を迎えた。今回から大阪芸術大学が参加し、京都市立芸術大学、京都芸術大学、嵯峨美術大学、京都美術工芸大学と本学を含む6大学の合同展となった。伝統工芸としての陶芸から現代の表現としての陶芸まで、幅広い表現の可能性を探ることを目指し、器や立体造形など多様な陶芸作品がギャラリー空間に展開した。ギャラリー前のアクティビティコモンズではカフェ&ショップスペースを設け、珈琲店「4'33".」とレモネード屋の「トルネードレモネード」が出店。器とドリンクが楽しめる開かれた雰囲気で来場者を迎えた。

OPEN THE [KAN]

会　　期　2024年9月27日(金)－10月6日(日)
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　京都精華大学大学院芸術研究科映像領域
出展作家　寇薇佳、徐子航、ヌルール・シュハダ、馬真鈺、馮逸萱、陳文ウィ、辻大輝、蛯原妃南
開場日数　9日
入場者数　283人

大学院芸術研究科映像領域に在籍する8名によるグループ展。展覧会タイトルの「Open The [KAN]」は、「可能にする、道を開く」を意味する“Open the door”と「感覚」を示す“KAN(感)”を組み合わせた「新しい感覚を獲得する」という意味の造語。作品制作の素材・ツール・支持体としてデジタル・テクノロジーを駆使する中、このテクノロジーを身体性の拡張と捉え、このデジタル時代における“KAN”に秘められた可能性を探った。作家らは映像や写真、3Dプリンター、プログラミング、スマートフォンなどを用いて、身体性や感覚を捉えなおす作品を提示した。

てのひらのフォーム

会　　期　2024年10月11日(金)－10月19日(土)
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　福岡梨水
出展作家　福岡梨水
開場日数　8日
入場者数　311人

大学院芸術研究科陶芸領域2年生の福岡梨水の個展。福岡は制作の反復によって、てのひらの感覚で作品を作れるようになるという。その身体動作は、さながらスポーツの「フォーム」のようであり、そこから新たな作品の「形態(フォーム)」が生み出されることから、展覧会タイトルを「てのひらのフォーム」とした。陶土は制作過程において乾燥や焼成によって状態が変わる。また、その素材と技法が持つ特性や制約は作品に影響を及ぼす。陶芸と向き合い、大量に生み出された作品と素材への気づきや感覚を、ギャラリー空間に様々な展示方法で展開していった。

京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第27回華展「轍」

会　　期	2024年10月25日(金)–10月26日(土)
時　　間	11:00–18:00
会　　場	京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催	京都精華大学嵯峨御流華道同好会
後　　援	はな古伝
開場日数	2日
入場者数	191人

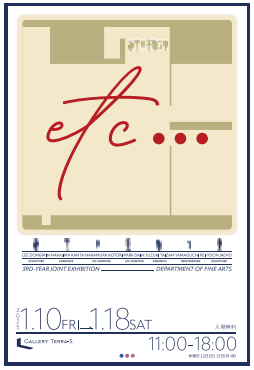
嵯峨御流華道同好会「華展」の第27回目の展覧会。展示では花器に活けられた草花だけではなく、竹をいくつも組み合わせたダイナミックな空間作品や、窓際の広い空間に大壺を配し枝葉を活けた作品たちがギャラリーを彩った。会員は自然の美しい造形をさらに引き立てるために、伝統や先人の教えを大切に学びながら日頃から鍛錬し、自分たちの新しい感性でいけばなに変化を重ねてきた。先人たちが築き上げてきた確かな道、「華道」を踏みしめて進む自分たちの活動の意味を見つめなおすという思いをタイトルに込めた。

木野祭 2024
作品展示会「閃光突破」

会　　期　2024年11月3日(日)－11月4日(月・祝)
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　木野祭実行委員会
開場日数　2日
入場者数　2,490人

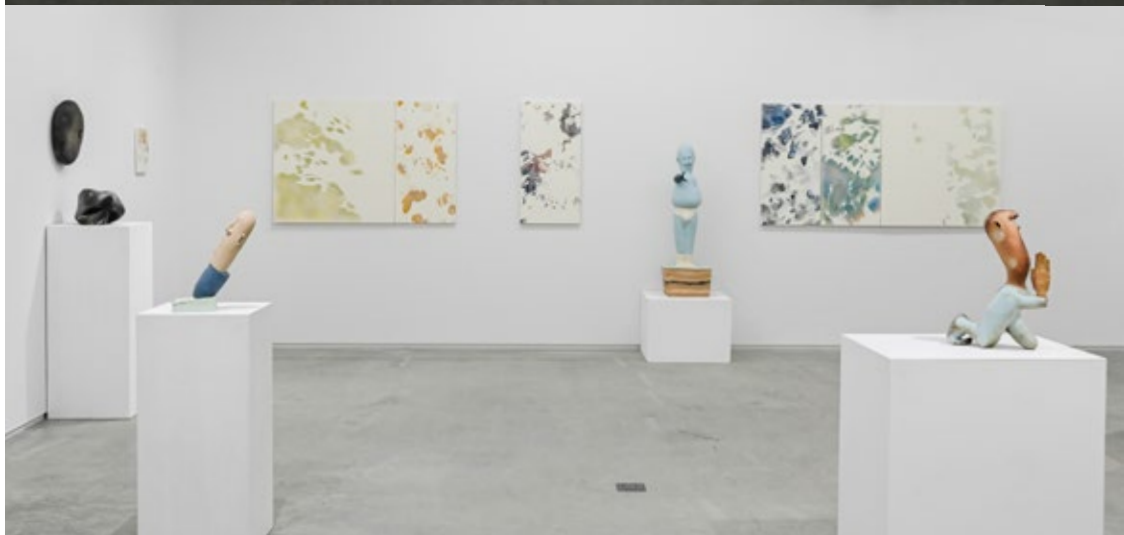
「木野祭2024」の作品展示会「閃光突破」を開催した。展覧会タイトルの「閃光突破」は木野祭のテーマでもある。専攻の枠を超えた自由な「突破展示」と各専攻の特色を活かした「閃光展示」の二つの部門で、本学の在学生、教職員を対象に作品を募集し、応募作品を展示した。会場では写真部による写真展を同時開催。会期中は近隣住民も含めて多くの来場者があり、絵画、イラスト、立体、写真、映像、インスタレーション、自主製作映画など、学生たちの多彩な作品を楽しんでいただいた。

etc…

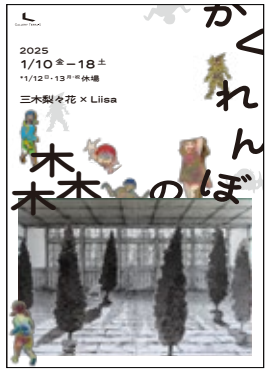


会　　期	2025年1月10日(金)–1月18日(土)
時　　間	11:00–18:00
会　　場	京都精華大学ギャラリーTerra-S A区画
主　　催	Project etc…
出展作家	イ・ドンミン、鈴木大山、中島幹太、中村琴梨、パク・ダイン、山口玲、ユン・ジェホ
開場日数	7日
入場者数	462人

芸術学部の洋画、版画、立体造形、陶芸専攻3年の7名によるグループ展。英語で「など」を意味する「etc.」と、日本語の文章で余韻を表したり関連する語をつないだりするときにつかう「…」を組み合わせて展覧会タイトルとした。展覧会をつうじて、さまざまなバックグラウンドを持つ作家が交わる場となり、新しいインスピレーションや価値観が生まれることを目指した。来場者は個性的な作品が響き合う、表現豊かな展示空間を楽しんだ。



かくれんぼの森
三木梨々花× Liisa



会　　期	2025年1月10日(金)–1月18日(土)
時　　間	11:00–18:00
会　　場	京都精華大学ギャラリーTerra-S B区画
主　　催	京都精華大学現代アートプロジェクト実行委員会
出展作家	三木梨々花、Liisa
開場日数	7日
入場者数	462人

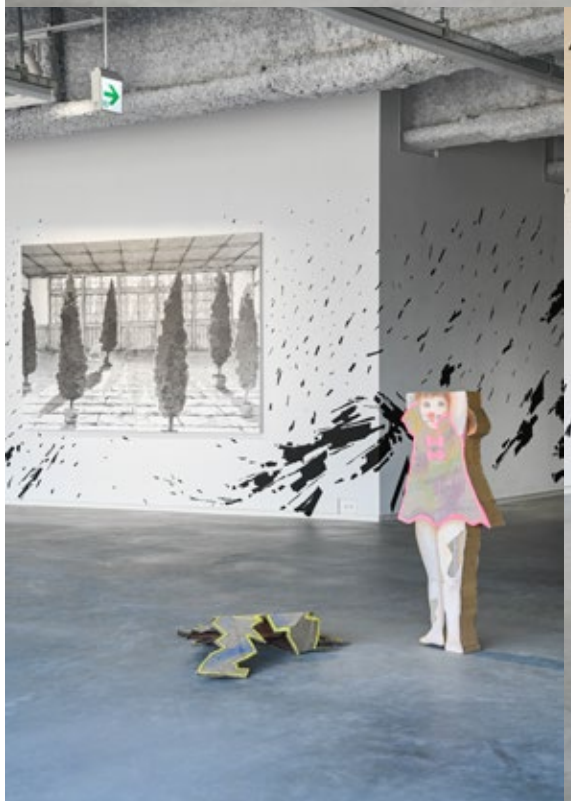
芸術学部の授業「表現研究3,4」、「現代アートプロジェクト演習4」(担当:芸術学部教員 吉岡恵美子)を通じて学生が自ら立案した企画展。本展では、作品のモチーフに子供が登場することや、言葉を介さない物語性が共通する三木梨々花(本学芸術研究科在籍)とLiisa(本学マンガ学部卒業、東京藝術大学美術研究科在籍)の作品を紹介した。来場者はギャラリー空間に広がる「森」で作品を探しながら、両作家の作品がうみだすイメージやその関係性を想像して楽しんだ。

関連イベント

アーティストトーク　三木梨々花×Liisa

日時 | 1月10日(金)12:15–13:00

会場 | ギャラリーTerra-S



光の届く

会　　期　2025年1月24日(金)－1月29日(水)
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S A区画
主　　催　光の届く一同
出展作家　四方優希、篠田結一朗、清水梨瑚、末崎優佳、髙木潤、髙田菜々美、武内晨、田中諄、田中ひより、槇奈都美、森大輝、吉田遥彦
開場日数　5日
入場者数　474人

芸術学部、デザイン学部、マンガ学部2年の12名によるグループ展。12名の作家が展覧会のために偶然集まったことから、普段交わることない「深海」と「透明」にその関係性を例えて、展覧会のメインテーマとした。展覧会タイトルには暗い深海に透き通った光を届けるというコンセプトを込めた。会場全体は薄暗く、来場者はハンドライトで作品を照らしながら鑑賞し、作品と光が出会う偶然の交わりを楽しんだ。作家たちは展覧会にあたって新作を制作。新しい素材と技法に果敢に取り組んだ成果を発表する機会となった。

ポール・コックス ポスター展

会　　期　2025年1月24日(金)－1月29日(水)
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S B区画
主　　催　京都精華大学デザイン学部イラスト学科
出展作家　ポール・コックス
開場日数　5日
入場者数　474人

デザイン学部イラスト学科主催の本展では、フランス人アーティスト、ポール・コックスが1996年から2023年まで手がけたポスターを中心に紹介した。代表的な作品であるナンシー・オペラ座とリール・北劇場それぞれのポスターを制作年代順に鑑賞できるように展示構成した。翻訳家、ふしみみさをとともに制作した日本の神話えほんシリーズも展示。日本の神話を描く上で、取材時に描きためたスケッチから、作家の視点や緻密さが垣間見れる展示となった。日本でもファンが多い作家の貴重な展示機会となったため、遠方からの来場もあるなど大きな反響を呼んだ。

京都精華大学展 2025
― 卒業・修了発表展 ―

会　　期　2025年2月12日(水)–2月16日(日)
時　　間　10:00–17:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　京都精華大学
出展作家　【芸術研究科】
(日本画領域)グ・ムシ、
チョウ・チョウデンエン、チョウ・メイゲツ
(洋画領域)釜堀綾子、橋本龍舞、
三木梨々花
(立体造形領域)コウ・ヒョウセイ
(染織領域)松本ことみ
(版画領域)グ・シシ、マーリィ・ツジイ
(映像領域)コウ・ビカ、
ヌルール・シュハダ、ジョ・ジョハン
【マンガ研究科】
(実技領域)イン・テツ、
オナル・ハムルジュ・ルメイサ、チン・ショカ、
リュウ・レイ、リン・ラクカ
開場日数　5日
入場者数　3,104人

関連イベント

公開作品講評会
日時 | 2月15日(土)13:00–16:00
会場 | 京都精華大学ギャラリー Terra-S 他
ゲスト | 奥村泰彦氏(和歌山県立近代美術館副主任学芸員)、笹岡敬氏(特定非営利活動法人CAS 大阪代表／大阪産業大学教授)

「京都精華大学展2025 ―卒業・修了発表展―」における大学院芸術研究科13名とマンガ研究科5名の展示。芸術研究科の日本画、洋画、立体造形、染織、版画、映像の各領域とマンガ研究科の実技領域の博士前期課程修了生が大学院での二年間の制作・研究の成果を発表した。

管派／穴派

会　　期　2025年2月25日（火）－3月7日（金）
時　　間　11:00－18:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　山本夏綺
出展作家　岡﨑未樹、兒玉真太郎、佐々木大空、ヤマモトナツキ
開場日数　10日
入場者数　205人

芸術学部卒業生で本展企画者の山本夏綺は「管／穴」の意味について、空洞という言葉が表すような空を「つくるもの」であり、「あるけれど捉えがたいもの」であると考える。本展では身の回りや社会にある掴みきれないものごとに対して作品制作を通じてアプローチする4名の作家を紹介した。岡﨑未樹による弔いのための穴をテーマにした映像作品、兒玉真太郎の炭鉱の坑道と石炭層をモチーフにした作品、佐々木大空の筒状の音響作品、ヤマモトナツキの内臓肉（＝管）をモチーフにしたインスタレーションがギャラリー空間に展開し、来場者の関心を強く引き寄せる展示となった。

関連イベント

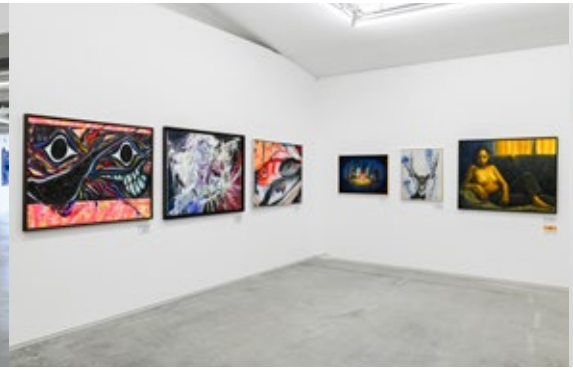
出展作家によるトークイベント
「管／穴の中サミット KYOTO 2025」
日時 | 2月25日（火）13:00－14:00
会場 | ギャラリー Terra-S 内イベントブース

公開ラジオ収録 ヤマモトナツキ「もぐらジオ」
日程 | 2月27日（木）、3月1日（土）、7日（金）
会場 | ギャラリー Terra-S 内イベントブース

高校生のための第6回創作作品コンペティション
「SEIKA AWARD 2025」入選作品展

会　　期　2025年3月15日(土)－3月23日(日)
時　　間　10:00－17:00
会　　場　京都精華大学ギャラリーTerra-S
主　　催　京都精華大学
開場日数　9日
入場者数　443人

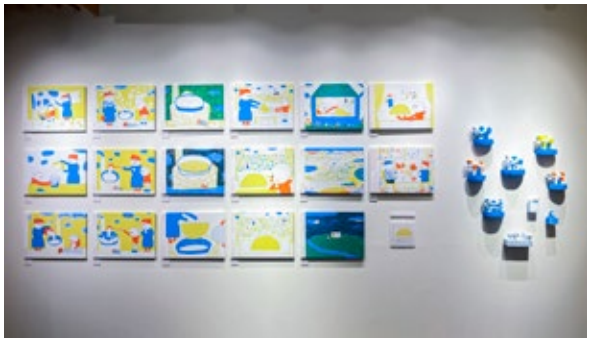
高校生の自由な創作活動の応援と、新しい才能の発見を目的としたコンペティション。第6回目となる今回のテーマは昨年に引き続き、「世界」。全国から1,011点の応募があり150点が入選した。本展では美術・工芸、デザイン、マンガ、メディア、文章、授業作品の6部門の受賞・入選作品を展示。入選作品のなかから教職員による厳正な審査のもと、43点をグランプリほか入賞作品として選出し、会期中に授賞式を実施した。全国各地から集まった高校生の多彩な作品を多くの来場者にお楽しみいただいた。



香老舗 松栄堂 薫習館
展示壁利用2024年度

会　　期　2024年3月29日(金)－11月7日(木)
時　　間　10:00－17:00
会　　場　香老舗 松栄堂 薫習館1F
所 在 地　京都市中京区烏丸通二条上ル東側（入館無料）

本学の社会連携の一環として、株式会社松栄堂の施設「薫習館」1階の展示壁に、2021年12月から2024年11月まで本学ゆかりの若手作家の作品展示を行い、これまで20名の作家を紹介してきた。最後となる2024年度は3名の作家が展示した。香り文化の情報発信拠点である薫習館は、香りを体験できるスペースや企画展示室、イベントができるロビーなどが設けられ、本店ショップも隣接していることから、観光客も訪れる施設である。多彩な作品が多くの来館者の目に触れる機会となった。



《さくさくウルム》2023　プリント、パネル、スタイロフォームにペイント
ハリヤ（デザイン学部卒業生）｜2024年3月29日(金)－5月29日(水)

《てがみ》2023　綿、ウール
ト・シャノン・カヤ（芸術研究科1年生）｜2024年5月30日(木)－9月1日(日)

《輪の中の赤い世界》2024　ミクストメディア
ジウ（マンガ研究科修了生）｜2024年9月2日(月)－11月7日(木)

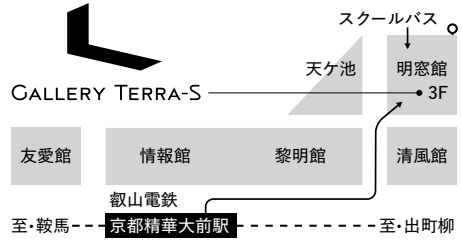
2024年度 ギャラリー来場者数｜NUMBER OF VISITORS

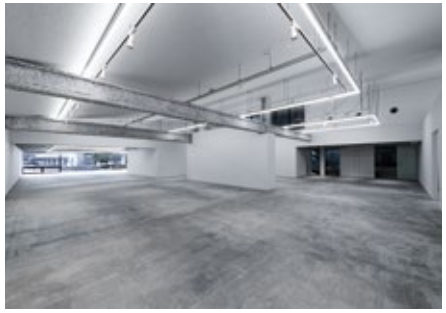
展覧会名	来場者数
企画展 「京都精華大学×ソウル市立大学校交流展『828.45K—Come & Go』」	1,079
企画展 「Seika Artist File #2『Imagined Sceneries —7つの心象風景をめぐる』」	1,302
申請展 「生駒泰充展 — The Never Ending Story —」	1,012
申請展 「あめつちのおもい」	439
申請展 「VISUAL PRODUCT 2023『6 / 5』」	
申請展 小田隆展「Oil Painting」 小田研究室大学院生合同展「優美な屍骸」	616
申請展 「 〇 」	278
申請展 「合同陶芸展 2024」	261
申請展 「OPEN THE [KAN]」	283
申請展 「てのひらのフォーム」	311
申請展 「京都精華大学 嵯峨御流華道同好会 第27回華展『轍』」	191
その他 「木野祭2024作品展示会『閃光突破』」	2,490
申請展 「etc…」	462
申請展 「かくれんぼの森 三木梨々花×Liisa」	
申請展 「光の届く」	474
申請展 「ポール・コックス ポスター展」	
その他 「京都精華大学展2025 — 卒業・修了発表展 —」	3,104
申請展 「管派／穴派」	205
その他 「高校生のための第6回創作作品コンペティション 『SEIKA AWARD 2025』入選作品展」	443
年間合計	12,950

施設案内｜GENERAL INFORMATION

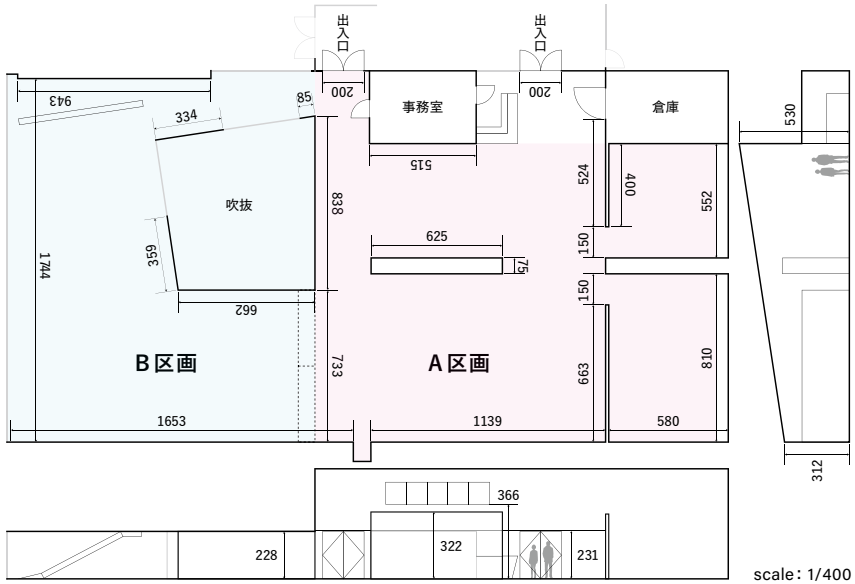
京都精華大学 明窓館3F
〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137

開場日｜展覧会開催期間
休場日｜日曜日・祝日・大学が定めた日
開館時間｜11:00 – 18:00（展覧会により異なる）
入場料｜無料





ギャラリー図面｜FLOOR PLAN



京都精華大学ギャラリーTerra-S
2024年度活動報告書

編　　集　伊藤まゆみ、齋藤雅宏（京都精華大学ギャラリーTerra-S）
編 集 補　杉本奈奈重、波賀野文子
デザイン　花戸麻衣
撮　　影　花戸麻衣（pp.8–11、12–13二段目、24–25）、高野友実（pp.14–17）、
　　桑島秀樹（pp.50–51上）、吉本和樹（pp.54–55）
画像提供　京都精華大学現代アートプロジェクト実行委員会（pp.46–47）

発　　行　京都精華大学
　　〒606-8588 京都市左京区岩倉木野町137
　　www.kyoto-seika.ac.jp/
発 行 日　2025年4月18日

KYOTO SEIKA UNIVERSITY GALLERY TERRA-S ACTIVITY REPORT 2024